

2023 年春季 参加報告書

参加プログラム：ディーキン大学

参加時の学年：2 年、学部：人文、学科：英語英米文化

今回の留学は、短期間でも自分の知らない環境で多くの刺激と共に英語に触れる機会を持ちたいと思い参加した。私はもともと留学を視野に入れて大学受験を考えていたが、コロナの影響により留学の実施が不透明だったため実現する可能性は低いものとして諦めていた。しかし、今回のディーキン大学の留学プログラムの案内を知ったおかげで留学への興味を改めて持ったため参加を決意した。

初めての海外での生活で慣れないことばかりだったが、ホストファミリーが優しい方達だったお陰で全体を通して不自由なことなく留学生活を送ることができた。全く見ず知らずの人の家に滞在するという慣れない環境と、英語でしかコミュニケーションが取れないという環境の 2 つが重なる状況下での生活は、最初の 1 週間は特に大変だった。初日に家のことは全体的にすべて教えてくれたが、長距離の移動に疲れていたこともあり洗濯の頻度やシャワーを使っていいタイミング、毎食の準備や時間など細かいことまでは聞いていなかったため後から確認するのは難しく感じた。私は英語で話すことに自信があるわけでもなく、また自分の英語力で意図を正しく伝えられるのか不安でもあったため、ホストファミリーと話すことに戸惑っていた。しかし、話すときはゆつりと、自分の思ったことが伝わるまで時間をかけて耳を傾けてくれたお陰で徐々に英語でコミュニケーションをとる事にも慣れ、それは後々大学の授業でも生かされたように思う。大学でのクラスはほとんどが日本人だったため予想に反して緊張はしなかったが、先生とのコミュニケーションや授業での説明など基本的にすべてが英語だったため頭の中で噛み砕いて授業内容を理解するのが難しく、全体を理解するのに時間がかかる毎日だった。しかし、先生も質問に対して丁寧に対応してくれて何度も説明を行ってくれたため、わからないことを後回しにしてしまわずに授業に取り組むことができた。

クラスが日本人ばかりだったことで現地の大学生との関わりがほとんどなかったが、昼休みや放課後に大学内のコートでバスケットをしていた時にメインストリームに通う現地の大学生と一緒にバスケットをする機会が何度も持てたため、バスケットを楽しむだけでなくコミュニケーションを多くとることができて良かった。また、自分たちと同じようにオーストラリアへ留学に来た海外の人も親交を深めることができて良かったと思う。母国語が英語でない人同士で、英語を通すことでコミュニケーションをとることができてとても不思議な気持ちと共に留学の良さを感じられたようで嬉しかった。

一か月の留学生活を通して、実感を得るのは難しいが英語を話すことに対する抵抗が自分の中でかなり無くなったように思う。大学での授業を通して自分の英語力が目に見えて向上したようには感じないが、英語に囲まれた環境で日常的に英語を使う機会が増えたことで自然と英語が出てくると感じるようになった。これは、もしオーストラリアでの留学生活を経験せずに日本での生活を続けていたとしたら実感できなかった変化であり、留学生活を通して大きく成長した点だと思う。今後の日本での生活でどれほど英語に触れる機会があるかはわからないが、積極的に英語を使っていきたいと思う。

また、これから先の人生において、今回の留学は確実に自分にとって糧となる経験であったと考える。オーストラリアへ行ったという事実以上に、現地で出会った多くの人々と、数々の体験は忘れることのない大きなものだと思う。現地で見たもの、聞いたことはそのすべてが自分にとって刺激であり、新鮮なものばかりだった。それまでの日常生活では感じてこなかったが、固定観念や常識と思っていたことに捉われず、柔軟な思考や広い視野を持つことの必要性を知ることができた。そのきっかけを作ることのできた今回の留学は非常に有意義な時間だったと思う。現地での生活にも少しずつ慣れてきて、交友関係や自身の行動範囲等を広げられるようになってきたタイミングでの帰国は惜しく、そう考えると一か月の留学はあっという間に感じた。大学からの支援やホームステイによるホストファミリーからのサポートもあったことで不自由がなく過ごすことが出来たのはもちろんのこと、長期となるとまた環境も生活も変わるとは思うが長期での留学にも興味を持ち始めた。機会があればまたオーストラリアにも訪れたいと思うと同時に、これから先もっと沢山の国へと訪れて自分の持つ視野を広げ、将来選択の糧に出来たら良いと思う。